

平成20年度第2回知床国立公園利用適正化検討会議
(中央部地区作業部会同時開催)

平成 21 年 3 月 17 日 13:30～15:45
釧路地方合同庁舎第一会議室

1. 開会

2. あいさつ 環境省釧路自然環境事務所長

3. 議事

(1) 平成 20 年度知床国立公園の利用状況

(座長)ご質問などないか。

(座長)シーカヤックの利用者のカウント方法はどのようにしているのか。

(事務局)事業者に対してアンケートを実施してカウントしている。

(2) 平成21年度知床半島中央部地区利用適正化実施計画の検討

(座長)まず資料2-1に関してご質問、ご意見承りたい。

(中川委員)連山について、硫黄山の登山道が使えない状況だが、利用状況がどうなったかきちんと把握する必要がある。また21年度はどうするのかは重要な問題である。まず利用状況はどうだったのか。

(事務局)カウンターは羅臼平から先の縦走路には今は設置していない。現段階では羅臼岳までの日帰り登山と、実際に縦走路をどれくらいの人を使ったかというのは把握できていない。

(中川委員)情報としてどうなのか。往復する人で人数はあまり変化しないのか。

(事務局)十分に把握できていない。

(中川委員)21年度も道道は通れないということか。

(事務局)21年度、カムイワッカから先の道道については、通行止めの状況がつづくと考えているので、硫黄山の登山道については利用できない状況となる。

(中川委員)説明会でも利用したいという意見がでていたが、当面使えないということか。見通しはどうか。

(事務局)環境省としては見通しは全くついていない。道路工事ができないので通行止めが続いている。このことについては管理者である道や斜里町などと継続して検討し、話し合いを続けたい。

(小林委員)3点ほど検討して欲しいことがある。まず羅臼湖だが、木道の補修にあたっては、どういところが腐朽しやすいのか、また自然環境に最も影響の少ない補修技術はどういったものがあるのか検討が必要。2つめはカムイワッカにおけるヒグマ出没時の対応で、実際スタッフは1人しかいない。ヒグマ出没時に1人の体制だけでは厳しいだろう。もっと大切なのは利用者がヒグマ出没時にどういった対応をしたらよいかという行動指針を示すことではないか。3つめは全体に関わることだが、情報提供や周知といったことが沢山できてきている。情報といっても野生動物に関すること、マナーに関すること、リスク、安全に関することなどいろいろあり、どれも同じように書かれているのが気になる。問題の認知、判断、行動という3つにわけて情報提供をしたほうがよい。

(座長)いまのは提案ということでお聞きしたい。

(斜里山岳会)資料2-1別表、知床連山のところの20年度実施状況の一番下、関係機関で打合せを行った(実施予定)となっているが、年度内にこれからやるということか。それから隣で、是非も含めて検討するとなっているが、去年から関係機関においてブース設置の協議を始めていると思うが、何がブース設置に対してネックになっているのか。

(事務局)行政機関の打合せは本日検討会後に実施予定である。またブースの設置の課題は、適切な維持管理ができるか、だれがやるのかが課題である。ブースを設置しただけでは汚れた状況になることも考えられ、適切な維持管理ができるといった段階ではないと設置できないと考えている。

(小川委員)ブースの維持管理ということは、故意かは別にして、中で携帯トイレを使わず用を足してしまう問題があるということでしょうか。

(事務局)そうである。

(座長)他にはどうか。

(中易委員)知床五湖の利用のコントロールのところ、本編の部分に総合的な施設計画を作成するとあるが、20年度に続いてまた計画を作成するのか。

(事務局)単純な作業ミスによる消し忘れである。消去したい。

(座長)他にはどうか。これまでの意見を踏まえて、修正するところは修正し、実施計画としたい。次の項目、資料3についてなにかないか。

(小川委員)利用者負担というのはどういう意味か。利用調整の方法として行うのか。管理費用を賄うためのものか。はっきりさせたほうがよい。

(事務局)利用調整の方法として、負担を求めるのではなく、管理費用を賄うためである。

(小川委員)額についてはこれから検討するのか。

(事務局)体制によって、管理費用が変わってくるので、体制が決まったあとに検討することになる。

(小川委員)お金を払うならいかならないということになることもあると思うが、そういう意図は含まれるのか。

(事務局)そのことは考えていない。

(ガイド協議会)ガイド引率でなくては入れないのに、なぜレクチャーを受けなければならないのか。そのためのガイドではないのか。

(事務局)受付施設で受付をすることと、レクチャーに関しては、ガイドが引率する時期としない時期で考える必要があり、ガイド引率期について、だれがレクチャーをするのかというのはこれから検討することになる。ガイドがつかなくて回る時期については、受付施設で必ずレクチャーを受けてもらうことになる。

(斜里町環境審議会)今の件に関連して、5/10から7/31はガイド付きしか入れないということに関して、レクチャーを実施することはよいと思うが、ガイド付きのみに限定されるのは理解できない。

(知床自然保護協会)文章を読むとより不便になるという印象があるが、そうではなく閉鎖される時期でさえもレクチャーを受けたりすれば、入っていけるということにより使い易くしようとしているはずである。わかりにくいため一般の人を排除しているという誤解を生じている。より便利に

するためにやっていることをアピールすることが必要。誤解を生じていると思うが、ガイドしか入れないのではなく、安全管理ができる人がついていけば入れる。

(斜里町環境審議会)ガイドが引率するグループのみと書いてある。文章に書いてあるとこのようにならなければならない。どうにかならないのか。

(新庄委員)ちょっと待つて欲しい。座長がコントロールしないところで勝手に議論をすすめてはわからなくなる。

(座長)今の議論はよくわからないが、知床五湖の利用のあり方の協議会を設置したのではないのか。議論なさって、了承したのではないか。今になってここで議論するのはおかしい。そういう質問ができることが理解できないが。

(中川委員)これは検討して決まったものなのか。

(事務局)細かいところは今後協議会で議論していくが、ここに出している内容については、2月19日の協議会で提案し、了承されたものである。

(座長)了承されたのであれば、今のは報告ということで良いか。

(斜里町環境審議会)参加されてない方は意見をいう資格がないということか。

(中川委員)認識不足だったと思うが、まだ完全に固まった物ではないと聞いている。特に安全管理者のところでガイド等というような曖昧なことではだめだと思う。ガイドであるといえれば誰でもなれるのかということもある。それはこれからの議論ということで良いか。

(事務局)説明不足の点があったのかもしれないが、認定の制度、方法については今後検討していく。

(新庄委員)これはここで議論すべき議事となっているのか。そうであれば議論はできる。報告であれば、聞くだけだと思う。

(斜里町環境審議会)議事なのか報告なのかはっきりして欲しい。

(事務局)資料の位置付けとしては、資料2-1の補足説明資料であり、報告である。

(座長)要するに検討状況という事で良いか。検討中ということか。

(事務局)細かいところは検討中ということである。今ご質問のあった高木さんについては、協議会にご出席されていないので、私どもの方できちんと説明したい。

(座長)改めてご意見伺うということで、ここで議論することではないということで良いか。

(事務局)そういうことで良い。

(小林委員)資料2-2について意見申し上げたい。羅臼湖地域に関する意見が確かに出ていて、これとどうやって解決するかといった時に、基本は自然環境を損なわないというのが大前提だと思う。その中で利用者のアクセスをどう確保して、それからトイレの問題をどう対応するかということ、その中で最適のソリューションというものがあると思う。もし地元で解決できなければいろいろな専門家からアイデアを出して解決して欲しい。

それから全般のところの自己責任等の問題について、大変深い問題だが、国土交通省では都市公園についてリスクとハザードをわけた議論をしている。ハザードは管理者が当然管理責任者としてのぞかなければいけないものという扱いである。それからリスクはできるだけ軽減するように情報提供を含めた対応をするということをつくっている。同じ国の機関であるので環境省も自己責任の公園利用についてそういった点をにらみながら議論をすすめて欲しい。

(事務局)次に資料4にすすみたい。報告ということだろうが、ご意見ないか。これは難しい問題と思われる。まだまだ解決には遠いと思われるが。

(小林委員)羅臼平が最も必要な場所となっているが、ここは特保であり人工的なハードなものというのは了解を取りづらい。簡易なものであれば、風が吹き抜けているのでおそらく持たない。そういうことを考えれば、例えばケルンのような形状で、ある程度隠れる場所と旗をたてるようなものにするなど、自然になるべくダメージを与えない、また維持補修もできるようなものなど、少しブースの作り方について、もう少し柔軟な議論が必要ではないか。

(座長)非常にいいご指摘と思う。他にはないか。

(新庄委員)トイレは国内でうまくいっている場所は、スタッフが必ず案内している。簡易テントにしろ、パーマメントなものにしろ、必ず掃除をしていて、利用の仕方を教えて、使った物は下の登山口で捨ててくださいと指導している。また持っていない人にはそこで販売もしている。これは東北の事例である。そこまで丁寧にはじめて成功するようである。だからよほどハードとソフトをきちんと準備できる体制を地元や国等で構築して、できた段階でやる必要がある。それだけのリスクを払っても登山を楽しみたいという人たちにはそれだけの負担を求めることも視野に入れることも考えて良いのではないか。知床五湖に関しても考えなければならなくなるかもしれない。

ガイドの仕方によっては、滞在時間が長くなり、体制作りを十分に練る必要がある。

(座長)資料5について、なにかないか。

(斜里山岳会)お願いになるが、二つ池の登山道のあり方について、以前林野庁の森林生態系の地域保全事業でいろいろ報告書が出されていた経緯がある。是非縦割りにならないように対応いただきたい。

(中川委員)迂回ルートについてだが、慎重な検討が必要とあるが、放っておくと今の湿原を壊していくことになるので、きちんと予算をつけて、二つ池の迂回路は真剣に検討すべきと思う。

(小林委員)一つは自然に手を加えるのは何らかのインパクトはある。一番自然へのインパクトが少ないものを選ぶのと、万が一インパクトが発生した場合に一番ケアしやすい場所はどこなのかということである。ゼロはあり得ない。二つめは尿尿の問題は水場の問題であり、大腸菌の問題が出てくる。であるから水質検査が必要と思う。検査項目を精査いただきたい。

(座長)いずれも重要なご指摘と思う。検討いただきたい。

(3) 報告事項

- (1) 知床世界自然遺産地域管理計画の策定について
- (2) 知床世界自然遺産センター・ルサフィールドハウスについて
- (3) 中央部地区利用適正化実施計画の普及啓発資料の作成について
- (4) 「知床永久の森林づくり」について

(座長)まとめてご質問、ご意見承りたい。

(斜里町観光協会)1点お願いがある。世界自然遺産センターについて、開所日が4月下旬とあるが、日程を教えてください。また開館時間について隣接するウトロ道の駅が8時半から

18時半であり、一時間の差がある。冬季は9時から17時ということでこちらには30分の差がある。夏場の差は開きすぎるとわれどうにかならないか。

(事務局)開館時間については、遺産センターについては入館終了の時刻であり、実際はあまり差は生じない。冬場についてはほぼ同じ状況と思われる。細かい部分は運営組織により検討していくことになっているためその中でご相談させていただきたい。

(中川委員)外来種の除去を遺産センター、フィールドハウスで行うと聞いていたが、できるのか。

(事務局)世界遺産センターで靴洗い場を設ける予定である。靴洗い場を展示的に見せようということも考えている。

(中川委員)普及啓発が大事である。できれば車もやりたいぐらいである。

(事務局)他にはないか。

(新庄委員)遺産センターとフィールドハウスの運営体制の中にスタッフの構成の記述がない。こういう施設をつくった時には人の配置が重要である。屋久島では、町の施設がスタッフを充実させ、遺産センターよりも充実した内容になっている事例がある。スタッフの内容と質を意識してデザインする必要がある。

また、外来種駆除について、国内でも現に登山口に靴の洗い場を設置しているところがあり、学ぶべきである。

(小川委員)資料3、4、5は折角やったことであり、実施計画に取り込んだ方がよい。資料の3であれば五湖の利用のあり方を検討したのだと思うが、そういったことを盛り込んだほうが良い。

(中川委員)硫黄山の話だが、登山道は関係なく、工事に関連して閉鎖している。自己責任という話もあり、なんとか通る方向で検討できないか。実際に安全が確保できるのであれば、クリアできないか。そうしないと完全に廃道になっていく。工事の期間だけなのか。それ以降も使えないのか。

(事務局)複数の関係機関が関わることなので、地元のご意見があったことを踏まえてよく検討していきたい。自己責任という言葉が一人歩きするのもあるので、根本的理由、管理責任など踏まえて検討していきたい。

(羅臼遊漁船)絶対だめということではなく、分からない分にはよいという感じになっているのは間違いない。完璧に通らなくすべきである。遠慮しているから努力すれば使えるところが使えないのではないかと。重点的に工事を終わらせて、入れるようにしていけばよい。

(網走土現)カムイワッカから先は工事の目処は立っていない。公共工事の予算は限られ、優先順位がある。登山者だけのために固定式ゲートをつけることは考えていない。また見逃しているわけではない。登山者のモラルはそんなに低いものか。罰則規定もあるが、そこまでやることは考えていない。

(羅臼遊漁船)建設の順序があるというが、やりようによってはできるのではないかと。やる気があるかないかということである。

(網走土現)1日何千台も通るところが優先される。

(羅臼遊漁船)であればいつになったら完成するのか。

(斜里山岳会)人間はだめだというのが、行政機関の関係車両は数は多くないが許可証を出して通している。どちらが危険なのか。車に許可証を出すのであるから、人を通すためにどんな方法があるのか検討もお願いしたい。

(座長)地元で少し話し合ったほうが良いのではないか。

(網走土現)以前からお話しているが、国有林、孵化施設などの必要な管理のために通している。その前提をぬきに話されると全体が見えなくなる。なにかご提案いただかないと、歩けるように検討して欲しいと言われてもこちらではできない。

(座長)ここで話し合っても難しい。

(羅臼遊漁船)担当者がかわって通れるようになるということもある。

(網走土現)それはない。

(座長)ここで議題は終わりにしたい。その他ということではなにかないか。

(事務局)資料は特に用意していないが、この利用適正化検討会議は平成13年から保護と利用に関する議論をすすめてきて、今のような位置付けになったのが平成16年である。平成16年に先端部の利用適正化基本計画を策定し、17年に中央部の基本計画を策定した。また19年に先端部の利用の心得を、今年度中央部の心得を策定した。もともとこの検討会議で定めている設置要綱にある検討の柱である適正化検討計画と利用のルールに関して、一通りの検討を頂いて、ひとつの区切りを迎えたところである。知床は沢山の会議、協議会を抱えており、整理をしなければならないと考えている。ただ基本的な検討を一通り行ったとはいえ、個別の事項について情報の共有、合意形成の場が必要と考えており、環境省としては、平成21年度にこの検討会のあり方も含めて会議の位置付けの検討をしていきたいと思っている。

(斜里環境審議会)前回ウトロの説明会でも意見が出たが、どうもガイド、観光協会だけ目をむけている気がする。地元が排除されている感があり、私もそう思う。斜里にあり、羅臼にある知床国立公園であり、地元に向けた施策を実施して欲しい。

閉会